

## 行脚修行を通して伝わる 「神仏の慈悲」

去る10月8日は、真成寺年に1度の『鬼子母尊神様』の大祭縁日に当たる。奇しくもその日は、大型台風「18号」が日本列島を席卷した。富山県に住む我々にとって、台風や地震とはあまり縁が無かったように思う。富山県には3千<sup>㍉</sup>級の山々が連なつて出来た立山連峰が聳え立っているお陰様で、台風による壊滅的な被害に遭つたという話を私は聞いたことはないが、今回の大型台風18号は、最大瞬間風速は富山で32・5<sup>㍉</sup>を記録し、県内各地で事故が多発した。家屋や倉庫のトタン屋根が吹き飛ばされたり、樹木が倒れる被害が相次いだ。また、強風により転倒する者、骨盤骨折で重傷になった女性。風に飛ばされて右大腿部の骨を折る重傷をした者、または落下してきた屋根の瓦が腰に直撃した者など4人の重軽傷者も出た。そして富山、高岡など7市で、延べ約3万4千5百戸が一時停電になる騒ぎ。小・中・高の各学校が休校の処置をとり、JR列車や空の便は運休・

欠航が相次ぐ。全国的に見れば死傷者も出る事態に…この様に整理してみると、今回の台風18号が、とれだけ猛

威を振るっていたかが分かると同時に、自然の驚異を感じずにはおられません。私達は自然と共存していかねばならない。と言うより、私達自身が自然の一部だということを、謙虚な気持ちで自覚しなければなりません。ややもすれば、人間こそが生態系の王様であり、人間の頭で生み出した「科学」こそが万能であるという、科学万能主義に陥っている人も珍しくありません。しかしよく考えてみると、私達人間も、地球という母なる大地（大自然）の中にあつては、微少な生命、大自然の一部に過ぎません。地球温暖化をはじめとする世界規模の問題は、全てが人間の持つ「傲慢」という心に端を発します。大自然の中で人間という生命体は、自然の一部として生かさせてもらっているんだという謙虚な気持ちを再確認し、目に見えないものに対する畏敬の念を忘れないようにしましょう。さあそれでは、今月号も行脚体験記の世界に皆様を誘つて参ります…。

冒頭で「台風18号」を取り上げて、自然の驚異について記しましたが、私

自身が目に見えない存在の大切さを、吉野山の道中で気がつかせて頂けたというお話を紹介します。

吉野山は、『奥千本』の頂上に祀られる「**金峰神社**」を目指し、吉野山への1歩を踏み出した。女将さんから助言されたあの「杉林」の古道へは、呉々も間違わないようにと、地図と睨めっこしながら歩を進めた。時期は2月下旬。道路にはうつつすらと白いモノが残っている季節。そんな雪化粧をした木々の間に望む吉野の御山は、神秘そのもの。1人唱えるお題目「南無妙法蓮華經」の声は、山に木霊（こだま）する。余談になるが「こだま」するとは、「木」の「霊」が呼応すると書く。まさに読んで字の如く、木々が共にお題目を唱えて応えてくれているように感じた。淋しいどころか、心強くも感じた。そんな事を思いながら歩を進め、『下千本』を出発した私は、気がつけば『中千本』の入り口まで来ていた。地図を確認すると、『中千本』から『上千本』に至る道中には、女将さんから助言された2股に分かれる、分岐点がある地点だ。一方は新しく舗装され、ハイキングコースにもなっている山道。もう一方は、人が歩く様な

山道ではなく「奥吉野周遊ドライブウェイ」になっている様な、「杉林」の鬱蒼とした山道だ。この分かれ道で万が一間違ふ様な事があれば、徒歩で頂上に辿り着くのは日没後になる可能性が大である。懐中電灯は持っているが、雪の山道には危険が一杯潜んでおり、取り返しの付かないことになるやもしれない…。そんな事を思いながら、道を見失わないように注意して山道を進んだ。地図を見ながら「左手にトンネルがある…アツあのトンネルだ。ここを通り過ぎたら最初の分岐道を左へ左へ入れれば、ハイキングコースなんだよなあ。よし！間違いない！」そう思いながら、どンドン歩を進めていった。しかし、地図上のハイキングコースには、世界遺産に登録されている「**水分神社**」や「**高城山展望台**」などの見所があるはずなのに、なかなかその姿を見せてはくれない。「おかしいなあ…そろそろ見えてきてもいい頃なのになあ…」と、歩いてきた道中を何度か思い返し、地図と見比べていると「アツもしかして！」と気がつけば時すでに遅し…。目の前には鬱蒼とした「杉林」のグネグネ山道

が続いているではありませんか！

「マジで……？どうして、どこで間違ったのか？トンネルを左手に見ていた時点では間違ってたなかったんだよね……じゃあ、左に曲がってた道の手前にもう1本道があったというのか？エッ？でも絶対無かった……！」と自問自答がはじまっていた。

私とすれば一番注意して歩いていたら場所だっただけに、道中の記憶は確かだった。しかしいずれにしても、今歩いているその山道が、人も歩かなくなつたという古山道の様だ。つまり、女将さんにも注意されていた、昔ながらの古山道に間違いなさそうだ……。一旦引き返そうとも思ったが、

「目の前に起こる現象は全て必然。何事も神仏様のお計らい（導き）」

また、常日頃から自分は生かされているという思念を大切にしている私は、杉林のこの道も、歩いて歩けないこともないだろう。ならば、「これも何かの導きなのだ」と、単純に見方を変えて、気合いを入れ直して、徒歩で通る事が無くなつたという山道を抜けて頂上を目指すことにした。が、行けども行けどもグネグネ道。見上げるも、濃霧が山頂

を覆って先が見えない。歩を進めれば進めるほど、辺りは一面、「杉林」どころか霧景色になってくる。空にも濃雲が覆っていて、太陽も見えない。人は勿論、車が一台も通らない。誰もいない。体が段々冷えてくる。急ぐ気持ちと、体を温める思いで山道を小走りに走ってみるも、永遠続く薄暗い山道。大きな声で唱える「南無妙法蓮華経」の声。なぜか虚しく響きわたっている。聞こえるのは、道沿いに生えている笹の葉が風に揺らく音だけ。そこにあるのは、自分の心と体が一つだけ……。

正直、途中で何度も引き返そうとも思った。そんな中で、私の気持ちの支えになつたのがやはり、「人類平和への強い想い」だった。私は「南無妙法蓮華経」と唱えながら、神仏様に懇願していた。現代に生きる私達の精神が、少しでも強固なものになっていきますように。「南無妙法蓮華経」と唱えて、「南無妙法蓮華経」の生き方に目覚める人が増えてくれますように。それには「私が、俺が……」の精神ではなく、「あなたこそが……お陰様で……」の精神に切り替わらなければなりません。その為には、私の心身はどうなつても構いません。どうか、檀家さん信者さん、

そして日本国が、世界中で悩み苦しんでいる人達皆が、仕合わせを感じ合う事が出来ますように……と。その瞬間、私の心に大きな一筋の灯火が点つたのだ。いま思うとあれは、私のそんな思いに対する、神仏様からの有り難い御返事だったと確信している。と言うのも途中、笹が風に揺れたり、杉の枝が「ゴオオオ」というもの凄い轟音と共に揺れ動く。その揺れ動く方向が上へ上へと、あたかも山頂へ私を誘つてくれているように感じた。と同時に、吉野山の神仏様として祀られている蔵王権現（詳細は九月号参照）が「まだまだだ！もつと精進しなさい！」と気合いを入れて下さっている様に感じた。道中ゾクゾクツと寒気が体中に走り、何かが背中を押してくれている様にも感じた。その時に、ハッキリ気付いた……。吉野山の至る所にお祀りされている神社仏閣は勿論素晴らしい。しかしそこは目的地だけで、誤解を恐れず言えば、そこは「中継地点」ではあるが、それよりも何よりも吉野山という御山自体が、この道中自体が、『御神体』なんだ！「南無妙法蓮華経」と唱えながら、歩を進める事自体が肝心要である！と。そんな当たり前のよ

うな事実気が付かせて頂けた。地図を見ながら、道順を間違わない様に気を付けてきた私に、もしかして、敢えて昔ながらの過酷なこの山道へと導いて下さった事は、私に気がつかせる為の、神仏様のお計らいだったのかもしれない。その時、自然と歓喜の涙が溢れ出た……。それから道中は、声も高らかに「南無妙法蓮華経」のお題目や、「自我得仏来……」と唱えながら、1歩1歩が神仏様への讃歎なんだという念を強くして歩を進め、ついに「上千本」から「奥千本」の「金峰神社」に到着するこ

とが出来た。  
目に見えるモノばかりに執着しがちな私達だが、本当に大事なモノは目に見えない部分にこそある。難題の無い人生は、「無難」な人生。難題の有る人生は「有難い」人生。畏敬の念をシツカリ持ち続ける事が、仕合わせに気付かせて頂ける特効薬だ。

次号に続く……

合掌 副住職 谷川寛敬